

歲

月七日、十一月大嘗日ヲ謂ヒテ、宴會アリ、後ニ正月七日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日ヲ五節供ト稱シテ相祝ス、又三元アリ、正月十五日ヲ上元ト云ヒ、七月十五日ヲ中元ト云ヒ、十月十五日ヲ下元ト云フ、並ニ之ヲ祝セリ、

〔伊呂波字類抄天象〕年トシ 歲載年也

〔釋名釋天〕年進也、進而前也、歲越也、越故限也、唐虞曰載、載生物也、殷曰祀、祀已也、新氣升故氣已也、

〔類聚名義抄〕年正上、通下、乖則天作此

〔書言字考節用集時〕白僧史音釋、印度爾雅、夏曰歲、商曰祀、周曰年、稔音枕、唐

謂一年爲一熟、稔取穀一熟、稔新字、千々萬々爲年、改易一歲、運一齡、周星春秋、並同、〔同數〕量、一年又云、一歲、淮南子、三

歲、〔同〕時、年半

〔和爾雅二〕年名、唐虞曰載取物終、夏曰歲取一歲星、商曰祀取祭祀一、周曰年取禾穀

〔古今和歌集春〕はるのとくすぐるをよめる

あづさゆみ春たちしより年月のいるがごとくもおもほゆる哉

〔古今和歌集七〕とゞめあへずむべもとし、とはいはれけりしかもつれなくすぐる齡か

〔日本釋名上〕年、としは疾也、はやき意、光陰矢の如く、年月は早くすぐる物なる故にとしと云、

古今集の歌に、とゞめやらすむべもとしとはいはれけりさてもつれなくすぐるよはひか、とよめるがごとし、

〔東雅文〕歲トシ、義不詳、年の字を讀事亦同じトシ亦轉じてトセともいふ、一年をヒトトセと

いひ、二年をフタトセといふが如きは、三十年をミンヂといひ、四十年をヨンヂといふがごと

きは、トシといふことは、轉じてシといひ、シ亦轉じてチといひし也、

みつね